

新建福岡・NOW

第25号 2022.03.11

& PAST

発行元
新建築家技術者集団
福岡支部事務局
〒815-0041
福岡市南区野間 3-9-20-4F
[ケイ・プラッツ内]
Tel/Fax 092-541-8128
HP : shinken-fukuoka.net

10/23

新建福岡 2021 年度 支部総会を開催 会場 10 名+ZOOM6 名が参加

2021 年 10 月 23 日コロナ禍の小休止の期間に、久しぶりのリアルな集まりの支部総会を、平尾の新谷先生のご自宅で開催しました。当日は会場に 10 名、Zoom での参加が 6 名、Web による出欠確認と委任状が 16 名で、議長は沖本さんをお願いしました。

[2021 年度の活動について] 幹事会は Zoom を中心に毎月開催が出来ましたが、議題は先送り傾向が続き会議を消化するだけになっているため、今後幹事会の活性化が課題です。支部活動の主体となる例会活動は「仕事を語る会」を 2020 年 10 月に井上氏、2021 年 2 月に川内氏の 2 回しか開催できていません。Web を使った報告会等が盛んになり、全国研究集会是半年間で 100 回ほどの講座が開かれ、多くの参加者があり福岡支部からの報告もありましたが、参加者は少なかったという印象があります。その中で、新しい形の例会活動が 2 つ生まれています。

「建まち読書会」は片井さんの提案で始まった企画ですが、毎回 10 名ほどの参加があり、半分近くは福岡支部の会員です。土曜日 6 時からと早朝ですが、ぜひ参加してもらいたいものです。

6 月から隔月で始まった「呑みどころ安」は矢野さんの主催の企画ですが、全国の方々との新しい形での交流ができる場となっています。

新建福岡も主催団体の「九州民家大学」も継続して開催され、福岡支部のみならず全国からの多くの会員が参加してくれました。50 周年記念事業はコロナ禍で中断延期を重ねていますが、支部の総力を挙げて、ぜひとも成功させたいものです。

[2021 年度の会計報告] 会計報告は原田氏に、監査は渋谷さんと沖本さんに行って頂きました。例会活動などが充分に行われなかったため出費が少なく、会費の納入状況も充分ですので財政的には余裕が出ています。次年度は有意義な活用ができる様に検討が必要になっています。

[2021 年度の活動方針]

- ・ 幹事会の議論を活発にしよう。 幹事会はリアルで集まっても Zoom 併用になります。多くの参加者と、活発な議論を行いたいと思います。
- ・ 50 周年企画を確実に実行しよう。 それぞれの部門で、確実に実行をお願いします。
- ・ 全国役員、支部役員の若返りを。 今後、全国での会議は Web 併用となるので若い方に全国幹事に手を挙げていただきたい。
- ・ 福岡支部 50 周年企画について。あらためて新建福岡支部としてできることを考える



記念誌発行（支部会員仕事集など）、建まち相談所の開設、支部活動強化（大牟田市庁舎本館保存活動等）など、支部の皆さまには、上記プロジェクトのいずれか（複数でも可）のサポートメンバーになっていただきたいと思っています。

[懇親会] 新谷先生のご尽力で美味しい鳥鍋を中心に、久しぶりに顔を合わせての懇親会を開催できました。2022 年 2 月現在、再度のコロナ禍の影響が大きくなっていますが、早く日常の活動を取り戻したいものです。（報告：鹿瀬島隆之）

■ 巻口義人 日鉄エンジニアリング(株) 「私の仕事 ～現在とこれまで、+少しだけこれから～」

まずは日鉄エンジニアリング（株）の巻口さんから、入社以来のご経歴から普段中心にされている見積業務についてお話しいただきました。一言で「見積」といっても、それを行う時期や目的によって、やり方や精度に違いがあり、状況によって使い分けられているそうです。

最近では提案型競争入札でコスト面から設計内容に関わったり、設計や営業の打合せに同行してコスト面のサポートを行うこともあるそうで、プロジェクトの早期からコミュニケーションを取りながらコスト面でサポートする仕事が楽しいとのことでした。

新建の支部活動の中でも、企画の立案段階から、実施段階まで、多くの関係者をまとめながら実行していく手腕と細やかさはすばらしいと思っていましたが、このような仕事でのご経験も活かされているんだと納得しました。

そして、新建に入られてから「地域に根ざした建築とまちづくり」という観点で将来の夢を持つようになったとのことのお話も印象的でした。現在すでに、地域でいろいろな活動を行われているようですが、今後の巻口さんの活動もとても楽しみです。



■ 瀬口淳 (株)森硝子店 「建築ガラスのトレンドと個別認定防火について」

後半は、(株)森ガラス店の瀬口淳さんから、ラグビーフットボール協会会長でもある森社長のお話や、環境負荷低減ガラスのお話、九州を中心とした多くの建物でのガラス工事の実績などをご紹介いただきました。あらためて、ほぼ全ての建物で使われる「ガラス」という建材の多様な使われ方を認識させていただき、また、使いこなすための技術の奥深さを感じました。

また、瀬口さんからのサービスとして、取引先の AGC グラスプロダクツ(株)さんより、「個別防火についてのご紹介」として法改正等により扱いが難しくなっている防火設備の個別認定に関わる情報をご紹介いただきました。また、最近の環境負荷抑制対策として採用が増えている Low-E ガラスの色の違いに関するお話など、建築設計実務にとっても役立つお話をいただきました。



山男でもある瀬口さんは、巻口さんとともに、これまで山登りなどの新建福岡支部のレクリエーション企画を実施してくれており、その準備の綿密さと細やかな気配りにより、参加された会員から大変好評でした。近々また企画を検討されているとのこと、とても楽しみです。

ふだんの新建での姿とはまた一味違ったお二人の仕事のお話を聞かせていただき、その専門性の高さや真摯な姿勢を感じるに至り、頼りになる男たちに惚れ直した夜でした。 (報告：古川学)

2021年11月21日に第33回全国大会が、大阪支部会員の山口氏の事務所をスタジオとして、全国からは Zoom での参加で開催されました。福岡支部の代議員としては古川さん、巻口さん、多賀さんの3名が出席され、全国幹事会議長の片井さんは大阪の進行で、大坪氏と鹿瀬島氏も Zoom 参加でした。

午前中は片方代表幹事による50周年事業による記念講演が行われ、新建設立理念の再確認やこの先50年に向けての展望が語られました。大会役員を選出後に、大会議案の提案・規約改正についての説明提案・財政報告と次年度の予算案の提案などがなされました。午後からはまず新建賞の授賞式があり、福岡支部からは風土計画の大坪さん、月成さんの事務所が奨励賞を受賞されました。おめでとうございます。

全体討議では議案についての意見交換の後は議案・規約改正の決議が行われ、次期役員の選出をもって初めてのオンラインでの全国大会が終了しました。

その後は自由参加でのオンライン交流会として「呑みどころ安」が出張開店して、しばしの間全国の会員の方々との親睦を深めることもできました。

前日の20日の夜には、Zoomでの支部紹介を中心としたプレ企画が開催されましたが、残念ながら参加者は少なかった様になりました。報告も北海道・東京・京都・奈良・福岡支部のみで、東京支部のホワイエで知ったのですが、頑張って作った東京支部紹介の動画も時間の関係でカットだったというのも残念でした。後日、全国大会の覇気の無さに辛辣なメールでの提言をいただいた丸谷さんのご意見も印象に残りました。

全国大会の詳細につきましては、建築とまちづくり誌の2022年1、2月号に詳細が報告されていますので、ぜひそちらをご覧ください。
(報告：鹿瀬島隆之)



2021
11~2月
(計8回)

第3期九州民家大学(後期)開催 東京都市大学名誉教授 宿谷昌則先生による「建築環境論 外論」

コロナの心配が尽きない時期にも関わらず、先生はすべて来福のうえ講義をしてくださいました。県内の受講者もオンラインで受講する方が多く、会場受講は10名前後でしたが、メール等で質問が寄せられるなど、対話型の講義となりました。今期も北は北海道、南は沖縄まで計59名(うち新建会員17名)が受講しました。

(伝統木構造の会九州地域会、日本民家再生協会九州・沖縄地区、新建福岡支部共催)

昨年11月から本年2月まで月に1回の土日で、計8回の講座がありました。

これは2019年9月から翌年2月まで同様に開催された12回の「民家大学__建築環境学 入門」及びその補講として2020年8月に2回の講座がありましたが、そのシリーズの続編・実践編です。

「建築環境学 外論」というタイトルは、漢字の変換ミスではありません。

「建築環境学を建築だけの話で閉じた世界観を作るのではなく、周りの様々な関連する事を含めて考え、建築のこと環境のことを理解する。という思いでこの漢字を使っています。」という説明が最初にありました。

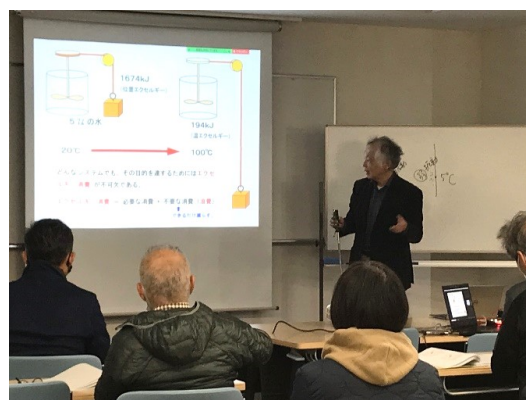
その通り、自然や卵のこと、宇宙のことそして人体の発生から身体にまつわる様々なこと、数え上げれば切りが無いほどたくさんある事象を示しながら、建築環境を身近にまた腑に落ちるようにと説明されるのは宿谷先生ならではの丁寧な語りであり、嬉しく聞いておりました。

また講座の中に出てくる歴代の研究者について、そのひとりとなりや研究者間の関係性などまでお話しいただくので、これも身近に感じられてとてもよかったですと思いました。

そして実践編とあるように、エクセルギー消費について実際に計算でたしかめる事も教えていただきました。残念ながらその作業にははじめず好きにはなれませんが、こういうのが楽しい人もいるんだよね〜と目が遠くを見ておりました。ただ、エクセルギー消費についての図と数字については、夏、冬の壁・窓(ブラインドありなし)をめぐる熱の移動がことさらリアルに感じられて、とても面白く見ていました。

とはいえ聞いた時には解ったようでも、後で反芻すると疑問符ばかりという、面白くも壮大な海の波打ち際に素足を浸したような気分です。

構造でも、温熱でもそうですが、幾度もそこに触れるうちに少しずつ身になっていくのだろうなと思いました。また機会があれば是非受講したいです。
(報告：江藤眞理子)

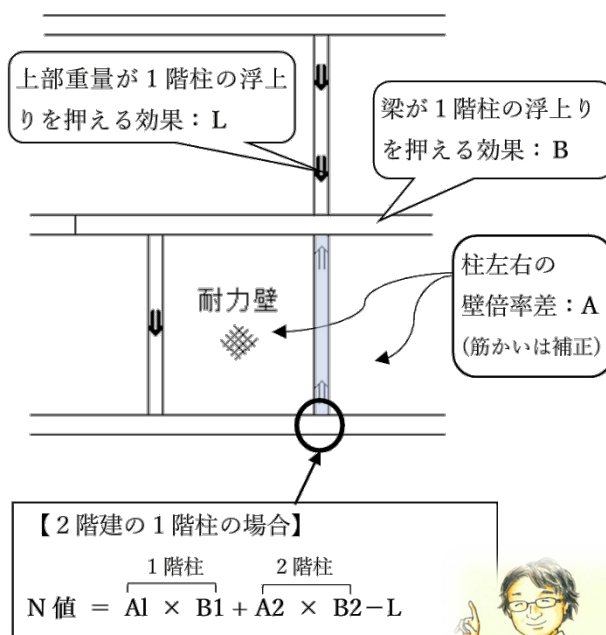


N 値の中身を理解しよう

仕口金物の選定をする際に行なう N 値計算ですが、改めて内容を確認してみましょう。

N 値計算は A, B, L の 3 つの係数を用いて算定します。柱 1 本ごとに梁間と桁行方向それぞれ算定して不利な方を採用します。各々の係数の意味は右図の通りです。

近々、4号特例縮小により、階数 2 以上または延べ面積 200 m² 以上には構造審査が発生することになります。今のうちに改めて勉強しておきましょう！



(株式会社川崎構造設計 川崎薫)



風のいろ (第七話)

前回のあらすじ

拓二への思いを残したままデンマークを離れたのり子だったが、雅子達との旅のおかげで、帰国後の新しい世界への思いに心を向けて行くことができた。福岡でのインテリアデザインの仕事にも、手応えを感じていった。

所属するハウジング部では自社開発のマンションに続いて、戸建て住宅団地計画も展開していた。のり子が配属された設計室で、東京の大手設計事務所から引き抜かれた室長の長野が、入社時からのり子に設計の実務を叩き込んでくれた。ハウジングへ持ち込まれ、設計室が担当する仕事は、外商部のお客様からのご依頼も多く、新築から改装、インテリアアコーデイナーと全般にわたる。入社当初は、インテリアデザインがメインののり子だったが、一年を過ぎる頃には建物本体からのデザインを担当するようになっていた。

「ごめん。今日中の予定のプランがまとまってなくて、帰りが十一時過ぎになりそう。」
「そう。気をつけて帰りなさいよ。」

今日、デンマークから大きな荷物が着いたようよ。」
先日、いつもの拓二からのエアメールに彼の投げやりな日常を感じて、おどけた口調を付け足したのり子の手紙に返事がないままだったから、母の言葉が少し気になった。

白木の箱についている鈎型の留め金を外すと、箱の中は、デンマーク製のカトラリー、水差し、シュガーポットが納められ、カードが添えられていた。

『さようなら』

「ねエ、デンマークに国際電話かけてもいーい？」

拓二がのり子の書いた手紙を読んで、心のズレを感じたとしても、書いた文章のどこが『さようなら』につながるのか、それとも他に理由があるのか、あの日から二年余り続いていた二人の思いに終止符を打つとしても、拓二と会って直接告げてほしいと、のり子は思った。

「九月十日、十六時にカストラップ空港に着きます。」

わかった、と応える二年ぶりの拓二の声は、変わっていなかった。

つづく



「新建 NOW リレーエッセイ」スタート



今回より、毎号、会員お一人の方のエッセイを掲載することになりました。目的は、会員の親睦、相互理解、不平不満や意見表明、学び、など何でもアリということで1ページを目安としてください。最後には、次の方を指名することを忘れなく。リレー形式で続けてまいります。では、



ヨーロッパ珍道中の思い出

大坪克也 220208

1990年6月、34歳の夏。前職を辞めるに際して溜まった有休を消化すべく、休暇を取って欧州を回った。ロンドンからパリ、TGVでミラノ、コートダジュールを横目に見ながらスペインに入り、最後はパリに戻って帰国という1ヶ月の駆け足バックパッキングだ。途中、面白い出来事もあったので思い出すまま綴る。(長くなりませんがごめんなさい)

ロンドンの初泊のみホテルを予約したが、あとは全て当日。目的地に午前中に着いたらまずは安ペンション探し、という日々。各都市せいぜい2、3泊。先々で「日本人は忙しい」と言われる始末。Thomas Cookの時刻表と”地球の歩き方”が頼りの道連れだった。

初めてのロンドン。有名どころはひととおり廻った。キューガーデンの美しさに心奪われ、大英博物館では言葉を失った。博物館・美術館などすべて入館無料、しかも展示室のすべてに警備の中年紳士がつく。こんな文明大国相手に戦争などするものではない。宿では意外に気さくな英国紳士と不味いと聞く英国料理を体験した。



Kew Gardens の大温室

ドーバーフェリーの青年たち 17、8歳か? 「フランス語喋れる?」 「petit」 「日本人は皆プチプチ」とからかう。でもいろいろ話しかけてくる気の良い連中。こちらもからかい半分で返す。夜、バスの後方で騒ぐ彼ら。前の方の女の子が何か叫ぶ。たぶん「うるさい、黙れ」と言われたのだろう。急にシュンとなって乗客のクスクス笑いが可笑しい。

パリには入ったものの、ここは一泊の素通り。旅のメインはミラノ大聖堂とコルドバのモスク訪問だ。知らなかったのだが、この年はFIFAワールドカップのイタリア開催の年。TGV車中も異様な雰囲気だ。Jリーグ誕生前夜の日本の旅行者としては文字どおりの別世界。

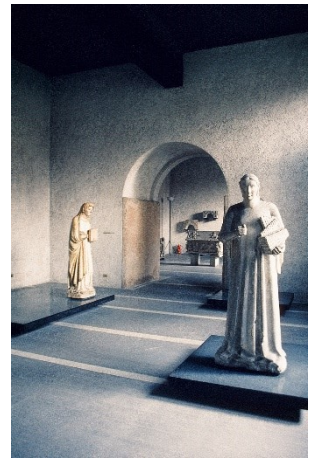
ミラノ着の翌日、大聖堂を訪問。感激しながら聖堂内の席でカメラを構える。ストロボが焚けないので荷物を置いて肘で固定する。その時、膝元にスッと気配を感じたが既に遅し。一瞬のうちにリュックを盗まれていた。間抜けな旅行者をこっそりつけてきた恐らくは子どもの仕業。冷や汗と鳥肌。被害はトラベラーズチェック(T/C)とカメラの交換レンズと小物で、幸いユーレイルパスは無事だった。警察を探して訴えるがイタリア語オンリー。そこへ出入りの業者らしい美しいオルネラ嬢登場。女神に思えた。英語で事態を伝えて被害届を書く。久々の英作文だ。



ミラノ大聖堂内部 / ”事件“の瞬間

ミラノ駅の窓口でT/Cの被害届を見せて事情を話すと「OK, No problem」と。ノープロブレムという言葉がこの時ほど頼もしく優しく希望に感じたことはない。

翌日、ベローナへ足を伸ばしてカルロ・スカルパの旅。オリベッティ本社、カステルヴェッキオ美術館を見て心底感動。東京からロミオとジュリエット目当てでベローナを訪れた女性に大聖堂での事件を話すと親切に旅情報やガイド本を分けてくれる。ミラノに戻り、お礼に路上の馬鹿騒ぎを見下ろしながらの夕食。サッカーのミラノ会場でイタリアチームが予選勝利を果たした夜だった。



カステルヴェッキオ美術館

地中海沿岸に行く夜行列車は安い6ベッドのクシェットの二段だ。乗客は少ない。途中乗ってきた陽気な男があった。意外に日本のことを知っていて楽しく語り床について。が、深夜に私の荷物をまさぐる気配で目が覚める。奴だ。とっさに「なんしようとか?! きさん(貴様)!」と博多弁で威嚇。彼は床に飛び降り、我も降りて自然に空手の構えをする。やったこともないのに「とりゃー!!」とか言うと、何やら「ゴメンナサイ」みたいなことを言いながら逃げていく。以前、友人がイタリアのどこかの駅のホームで、荷物の引っ張り合いをした時、空手のまねごとをして難を逃れた、というのを思い出した。

すっかり目が冴えてしまう。深夜2時ころか。今度は怪しげな男の二人連れが入ってくる。しかも大男。いずれもワイルドな風貌、というより薄汚い。で一人は足に怪我をしているのか? 映画“真夜中のカウボーイ”のマイアミをめざす二人連れのように。ありや、またやべえ〜なあ、用心していると、なんか優しく話しかけてくる。片言英語が通じて、どうも無賃乗車らしい。何を話したか忘れたが優しくとてもいい人たち。途中、車掌が見回りに来て見咎められ、「次の駅で降りろ」と言われてしまった。可哀そうに。何故か握手をして別れる。なんとも不思議な夜だった。

バルセロナでは最初に駅の事務所へ。念のためアメックスのチェックにしておいて本当に良かった。ミラノで被害申告した金額分のT/Cをここで受け取れるのだ。旅を遅らすこともなく。国境を超える素晴らしいシステムに感激。



サグラダ・ファミリア

安ホテルを決めると、さっそくガウディ。サグラダ・ファミリアからカサミラ、グエル公園をゆっくりとまわる。

翌日、遅めの午後、モンジュイックの丘、磯崎新の五輪屋内競技場“パラウ・サン・ジョルディ”を目指して行くと、いつの間にか工事現場のエリア? にいるらしい。気が付くと近くの旧スタジアムからローリング・ストーンズが流れてくる。ナント! 夜のコンサートへ向けてのリハーサル中だったのだ! 扉の隙間から覗こうとするも姿は見えぬ。それでもミック・ジャガーのルビー・チューズデイを生まれて初めて(最後でもあるが) 生で聴いた、どころかサビと一緒に歌った! スゴイ! ラッキー!!

後で表へ回ると開場待ちの人々。私は工事ヤード側へ迷い込んでいたので一人で無料の特等席だったのだ。

うろついていると白バイの警官「ここに入ってはいけない。出なさい」という。「えええ〜!? これ(磯崎)を見るためにはるばる日本から来たのに〜(涙)」と一芝居打つと、じゃ乗れ、と白バイの後ろに乗せてくれて現場をぐるっと回ってくれた。ただの工事現場で大した感動はなかったが、、、優しいポリスマン、ごめんなさいm()m



コルドバのペンション/正面2Fの部屋

バルセロナ3泊で、いよいよコルドバへ。ペンション Hotel Maestre はGoogle Mapで今も確認できる。懐かしい。コルドバのモスク、高校時代からのあこがれの空間に立つ。スペインはヨーロッパとイスラムが争い共存した文化。縞々アーチ列柱空間の中央にはゴシックのカテドラルが「挿入」されている。レコンキスタの象徴だ。

スペインは中央ヨーロッパ時間圏の最西にあるため実際の時間より時刻表示が2時間ほど進んでいる。だからペンションのパティオでは夜の11時くらいまで騒いでいるし、朝9時発のグラナダ行バスに乗るのにまだうす暗いうちに出る。

グラナダ駅で会った石田さんという人に良いペンションを教えてくださいと、たまたまその日は祭りの日で、二人で街の賑わいを楽しむ。アルハンブラ宮殿では数人の日本人と出会った。東京渋谷でデザインをやる村井さんとは座り込んで長いことお話しした。大阪阿倍野の竹花老人は、考えてみれば今の私くらいの年齢だ。「仕事、独立したら頑張れよ」と励ましてくださった。傷心旅行風のヨウコさんからはヘネラリフェの庭をめぐりながら人生相談を受ける。皆さん、私とは異なりゆったりとした一人旅だ。

イスラム風情のアルバイシン地区では、各住戸のパティオの門扉、その美しい格子を数十枚の写真に収める。

スペインの仕上げ、マドリッドへ向かう列車に乗り込むとコンパートメントはチェコの女性とダブルブッキング。一瞬、緊張走ったが紳士ぶって席を譲ると部屋は和んだ。マレーシア人、フランス人がいる。廊下に佇むとチェコ女性が気遣って飴玉などをくれる。

そのうち子どもたちが数人、物珍し気に寄ってきたので挨拶すると打ち解け遊び始めた。マドリから研修？で来ていた中学生たちだ。同伴の教師は無精ひげの私に警戒するも、彼らマリシオル、ネスターたちとは国際交流。なんとか通じる英語でスペイン語を教えてくれた。楽しい時間はあっという間に過ぎて、マドリはチャマルティン駅で別れを惜しむ。

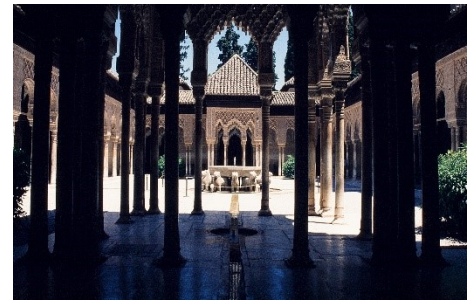
マドリッドではプラド美術館の着衣/裸体のマハの絵に衝撃。こんなにでかい絵だったの?! ミロとダリの本を買う。ここは何と一泊でラストのパリへ向かう。

パリでは、ラ・ビレット公園とポンピドーC、オルセー、ルーブル、アラブ世界研、デファンス、サボア邸ほかをじっくり回る。凱旋門、エッフェル塔にも登った。屋根裏部屋のような安ホテルで食べるスーパーで仕入れたサラミソーセージとチーズ、それに数百円の赤ワインがめっちゃ美味しい! 早朝の牛乳配達達のビンの音。世界中に似たような生活の風景がある。これには何故か元気づけられる。

パリからロンシャン教会へは夜行の鈍行で向かう。早朝、田舎町のベルフォール駅に降り立つと向こうからニコニコしながら一人の東洋人。こちらが日本人であることをお見通しのように「こんにちは～」と声かけやってくる。同業の濱田さん。今は大阪だが3年前までは博多にいたそう。「大坪さんという構造の女性と仕事した」と言うのでよくよく聞けば私の妻だ。えええええ～!!? 川崎さんの事務所でお世話になっていた時の話らしい。地球の裏側の小さな田舎町で! もう驚いたのなんの。



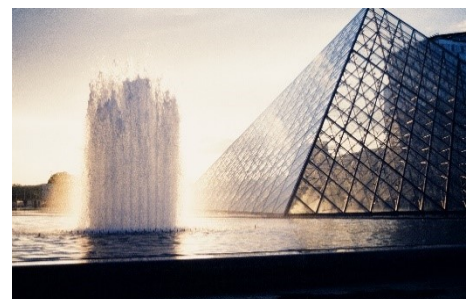
コルドバのモスク/内部



アルハンブラ宮殿/ライオンの中庭



腕組みのマリシオルとネスター(左)たち



ルーブル・ピラミッド

すっかり意気投合し、ロンシャンと一緒に回り、パリへ戻り夕食を共にし、日本でいつかまた会おうと別れた。それから会っていない。

帰国のシャルルドゴール空港で神奈川と大阪からのバックパッカーと知り合い、クアラルンプールのトランジットで同宿。何かのついでで来るというので、その年の暮れに博多で3人再会した。お兄ちゃんの私はおもてなしに散財。

旅の終盤、日本へ帰りたいような、まだ帰りたくないような。独立前の期待と不安で面白い心持ちのひと月でした。いやあ懐かしい。往復の航空券15万円を含み、もろもろ総額で40万円ほどの軽費旅行、この歳ではもうしきらん。(完)



クアラルンプールのホテルにて

圧縮しきれず長くなってしまいました。ゴメンナサイm(_)_m
次号では、ちょっとご無沙汰気味の古賀久典さん！おねがいしま〜す。

1ページを目安としていますが、大作も歓迎します(笑)

大坪克也さん から



古賀久典さんへ

お知らせ・予告

※内容や時期が変更になる場合があります。ご了承ください

- 第4期九州民家大学は、オークビレッジの上野英二さんを講師にお招きし、7月からスタート予定です。詳しいことが決まり次第、案内します。
- 「仕事を語る会」は、支部会員の仕事・お人柄を知るとてもよい機会になっており、人気の企画です。全員に登壇いただくまでには時間がかかりますので、50周年記念のプロジェクトの一つとして、「支部会員仕事集(仮称)」を製作することになりました。詳細は後日案内しますので、ご協力よろしくお願ひします。
- 10月号の「建築とまちづくり」で、九州特集が予定されています。福岡支部のメンバー6名が編集委員となり、準備を進めています。「そんな動きがあるんですか」と準備のなかで知ることもあり、九州でのまちづくりや建築をめぐる動き、取り組みを紹介する内容になりそうです。編集委員から連絡がありましたら、情報提供、ご協力よろしくお願ひします。
- 新建福岡で8月頃に講演会を開こうと、準備が進められています。お楽しみに。

呑みどころ 安

偶数月の第3水曜日 19:00 開店の

「呑み処 安」。

今回は、4月20日(水)

皆さまのお越しをお待ちしております



編集後記

最近、打合せはZOOM、対面打合も抗原検査を受けてからと、まだまだ制限される日々が続いています。ただ昨今のニュースを見ていると、普通や平穏という認識そのものが変わって来ているように感じます。そんな中で、これだけのボリュームのNOWが出来上がりました。原稿をお送り頂いた皆さん、ご協力ありがとうございました。(中島)



(原稿とりまとめ：中島 レイアウト：月成)